

令和3年度 足立区における 年間事業実施報告について

《 目 次 》

危機管理部	1～4頁	教育指導部	22頁
地域のちから推進部	5～11頁	学校運営部	23～24頁
産業経済部	12～13頁	子ども家庭部	25～31頁
福祉部	14頁	こども支援センターげんき	32～36頁
衛生部	15～18頁	生涯学習振興公社	37～39頁
都市建設部	19～21頁		

所管部署：危機管理部

ビューティフル・ウィンドウズ運動

区では、刑法犯認知件数の減少と治安の向上を目指し、区民、警察、関係団体等と連携し、「足立区総ぐるみ」で犯罪のない住みよいまちをめざす「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を平成20年度より展開している。

事業項目概要		令和3年度			今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題	
<p>区民への防犯・防火意識の啓発</p> <p>【概要】</p> <p>(1)A-メールの活用(登録者に不審情報等の警察署・消防署からの防犯・防火情報を配信)。</p>	<p>【配信回数】</p> <p>随時</p> <p>警察署からの不審者情報、消防署からの防火に関する情報を配信していく。</p>	<p>【配信回数】</p> <p>574件</p>	<p>警察署からの児童・生徒に対する声かけ事案や、消防署からの防火に関する情報を配信した。</p>	<p>警察署・消防署からの情報のみでは配信情報が限定される。</p>	<p>警察署・消防署からの情報以外についてもA-メールで情報配信を行う。</p>
<p>(2)ウェットティッシュ、チラシ、ビュー坊着ぐるみその他を使用した啓発の継続。</p>	<p>【実施回数】</p> <p>50回</p> <p>毎月20日前後に警察署と合同で実施するペンタゴン作戦等において啓発を実施する。</p>	<p>【実施回数】</p> <p>8回</p> <p>信用金庫の日、税務署との合同イベント、年度末に緊急対策として啓発イベントを実施した。</p>	<p>コロナ禍のため、イベント等が中止となり、予定していた啓発活動が実施できなかった。</p>	<p>コロナ禍でも実施できるような啓発方法の検討をする必要がある。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に配慮し、人数を絞り短時間での啓発活動を実施する。</p>
<p>(3)区民まつり、しようまつり等の各イベントに出展し、啓発活動を実施する。</p>	<p>【実施回数】</p> <p>6回</p> <p>千本桜まつり、青井バラまつり、しようまつり、区民まつり、矯正展、国際まつりで出展し、啓発活動を実施する。</p>	<p>全て中止</p>	<p>区内の各イベントが中止になったため、啓発活動は実施できなかった。</p>	<p>区内の各イベントが中止となったことで、啓発の機会がなくなった。</p>	<p>実施されたイベント内において、最大限の啓発活動を実施できるよう検討する。</p>
<p>(4)特殊詐欺において、未成年が加担していることから、警察と連携した啓発活動を展開する。</p>	<p>【実施回数】</p> <p>30回</p> <p>警察と連携し中学、高校向けのセーフティ教室に参加して非行防止活動を実施する。</p>	<p>参加を中止</p>	<p>コロナ禍のため、各学校へ赴いての防犯対策は実施できなかった。</p>	<p>コロナ禍においても、非行防止活動を実施できるよう警察と連携した対応を検討する。</p>	<p>コロナ禍においても、非行防止活動を実施できるよう警察と連携した対応を実施する。</p>

所管部署：危機管理部

令和3年度				
事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題
<p>自転車盗難対策</p> <p>【概要】警察と連携し、区営駐輪場や公共施設、マンション等の集合住宅等に標語札(短冊シール)の貼付けや音声で鍵かけを促すボイスセンサー設置などの啓発を強化する。</p>	<p>【標語シール貼り付け箇所】100か所</p> <p>【ボイスセンサー】120か所</p>	<p>【標語シール貼り付け箇所】区内施設160か所</p> <p>【ボイスセンサー】区内の駐輪場77か所に設置。</p>	<p>令和3年末の自転車盗被害は859件(前年比-247件)を達成。</p>	<p>自転車盗の多発場所が駅前周辺の駐輪場から自宅やマンションの駐輪場に変遷しているため、自宅での鍵掛け啓発を拡充していく必要がある。</p>
<p>地域防犯活動の助成</p> <p>【概要】防犯パトロールなどの活動を自主的に実施する青少年団体、町会・自治会等に対し、パトロール用具購入費等として1団体10万円を限度に助成する。</p>	<p>【団体数】40団体</p>	<p>【団体数】13団体</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響によって、地域団体の防犯活動を制限していることもあり、申請団体数は減少した。</p>	<p>広報で助成金についての案内を載せることで、地域団体に対して周知を図る。</p>
<p>防犯防火パトロール</p> <p>【概要】(1)警備会社への委託により、青パトでの24時間体制のパトロールを区内全域において実施し、児童の登下校の時間帯は通学路を中心にパトロールを行う。</p>	<p>【運行台数】昼間3台、夜間4台</p>	<p>【不審者等突発事案対応件数】116件</p>	<p>昼間の時間を1台増車することで、不審者等の突発事案への対応を迅速に行うことができた。</p>	<p>昼間の運行台数をさらに1台増車し合計4台とすることで、児童の登下校の時間帯のさらなる安全・安心に向けたパトロールを行う。</p>

所管部署：危機管理部

令和3年度				
事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題
<p>【稼働日数】 246日</p> <p>(2) 警備会社への委託により、徒歩によるパトロールを区内全域において、主に子どもの見守り、特殊詐欺、自転車盗、ひったくりの防止を実施する。</p>	<p>【稼働日数】 246日</p>	<p>【稼働日数】 246日</p>	<p>通学路や公園内のパトロールを実施することで、児童の安心感に繋がった。</p>	<p>徒歩によるパトロールのため、時間内に活動できる範囲が制限されてしまう。</p>
<p>(3) 区の職員である防犯推進員が青パトによりパトロールを実施する</p>	<p>【運行回数】 235回</p>	<p>【運行回数】 235回</p>	<p>平日、昼間の時間帯において、区内全域のパトロールを実施した。</p>	<p>より区民が安心できるように、パトロールのエリアやルートを工夫する。</p>
<p>(4) 区民事務所10か所に青パトを配車し、青少年団体、町会・自治会等によるパトロールでの活用を促進する。</p>	<p>【配車台数】 11台</p> <p>【活動回数】 1160回</p>	<p>【配車台数】 11台</p> <p>令和4年1月、竹の塚区民事務所に新規配車した。</p> <p>【活動回数】 1123回</p>	<p>配車箇所は増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、貸し出しを停止していた時期があり、活動回数はあまり増加しなかった。</p>	<p>活動する人が固定化されている。</p> <p>隊員の高齢化が進み、新規の青パト隊員についても高齢者が多い。</p>
<p>綾瀬重点防犯対策の推進 【概要】 駅周辺の小学校、町会・自治会、商店街、事業者等が一丸となり、清掃活動、防犯・美化の呼びかけ等を行う防犯・美化キャンペーンを実施する。</p>	<p>【実施回数】 年2回(春・秋)</p>	<p>いずれも中止</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大のため、いずれも、開催することが出来なかった。</p>	<p>防犯推進員によるパトロール活動について継続して実施する。</p> <p>実施者証を取得してから一度も活動していない方へ向けて活動を促す。</p> <p>若者が活動に参加できるよう呼びかける。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑みて、開催方法等を検討し、防犯・美化キャンペーンを実施する。</p>

所管部署：危機管理部

事業項目概要		令和3年度			今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題	
<p>「ながら見守り」の事業周知</p> <p>【概要】 不審な人物や車両がないかなど、日常生活をし「ながら」まわりに目を向けることで、子どもや地域の安全を守る取り組み。</p> <p>令和2年9月に事業スタートし、区内在住、在勤の方は、一人からでも参加可能。</p>	<p>新小学1年生、保護者向けの事業周知を行う。</p> <p>・学校、PTA向けの事業周知を行う。</p>	<p>・5月、新小学1年生約5,000人に事業案内のチラシ、防犯まちづくりキャラクター「フク防」のシールを配布した。</p> <p>・区内小学校69校にポスターを掲示した。</p>	<p>予定通り、事業案内チラシとシールの配布、ポスター掲示ができた。</p>	<p>「ながら見守り」事業や「フク防」の認知度は、小学生、保護者ともに全域で見ると高くはないため、今後も周知活動の継続が必要である。</p>	<p>「ながら見守り」事業及び、「防犯まちづくりキャラクター」「フク防」の認知度向上に向けて、周知活動を引き続き継続していく。</p>



キャラクターシール



チラシ・ポスター

所管部署：地域のちから推進部

1 児童館事業

児童館は、18歳未満のすべての子どもを対象に、「子ども支援事業」として遊びを通して子どもの育ちを支援する施設である。また、乳幼児親子を対象とした「子育て支援事業」を実施している。

令和3年4月1日現在、区内に52館(直営館1館、住区センター内児童館51館)設置されている。

事業項目概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績	課題	
子ども支援事業 【概要】 18歳未満のすべての子供を対象に遊びや体験を通して、子どもの育ちを支援している。	【実施館数】 52館	【実施館数】 52館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して行った。	現時点ではwithコロナ。今後の動向により、コロナ前の賑わいに戻す。
子育て支援事業 【概要】 乳幼児親子が自由に遊べる場を提供し、乳幼児グループ活動等を支援する。	【実施館数】 52館	【実施館数】 52館		
その他 【概要】 (1)住区まつり、子どもフェスティバルなど	【実施館数】 52館	全館中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。	現時点ではwithコロナ。今後の動向により、コロナ前の賑わいに戻す。
(2)悠々館利用者と児童の交流(昔遊び、囲碁、将棋遊びなど)	【実施館数】 52館	全館中止		
(3)障がい児の交流事業	【実施館数】 1館	中止		

所管部署：地域のちから推進部

2 足立区町会・自治会連合会の事業

令和3年度			
事業項目概要	計画・予定	実績	評価
<p>足立区町会・自治会連合会の事業(青少年部会)</p> <p>【概要】区内25地区から選出された部員(会長)による勉強会</p>	<p>【実施会場】本庁舎大会議室A</p> <p>【実施内容】「青少年の健全育成」に関連するテーマの講義</p>	<p>2月18日に予定していたが、新型コロナウイルスの影響により開催延期</p>	<p>未開催につき評価出来ず</p>
			<p>課題 区内25地区の代表に向けて講義を行っているが、その情報が各地区の町会・自治会へ拡がりにくい。</p>
			<p>今後の展開 ・延期となっている部会開催に向け再調整していく。 ・講義内容を他の町会、自治会へ情報提供・紹介する方法を検討していく。</p>

3 足立区障がいのある児童・生徒の地域活動支援事業

令和3年度			
事業項目概要	計画・予定	実績	評価
<p>キラリン☆プレミアムクラブ(4月～3月)</p> <p>【概要】地域ボランティア団体「キラリン」が中心となって、身近な学校や地域学習センター等を利用して、障がいの有無にかかわらず子どもたちが楽しんで参加できる事業を開催する。</p>	<p>【実施会場】地域学習センター、区内小中学校、ギャラクスティイ</p> <p>【実施内容】和太鼓教室、フライングディスク、軽チャークラブ、おんがくあそび、ダンス教室、ハートフルコンサート</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を予定していた事業のうち、ダンス教室のみ実施し、その他の事業は中止となった。</p>	<p>一事業以外は全ての事業が中止となったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点によるものであるため、やむを得ないものと判断する。</p>
			<p>課題 当活動は障がいのある児童・生徒の貴重な地域活動の場であるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くの事業が中止となってしまった。 必要な感染防止対策を行ったうえで可能な範囲でどのように事業を実施できるかについて、検討する必要がある。</p>
			<p>今後の展開 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、実施可能な事業について開催を予定する。</p>

所管部署：地域のちから推進部

4 学習センター事業

学習センターは、地域の生涯学習の拠点として区民の生涯学習を支援する施設である。

平成28年度の夏休みより、子どもの貧困対策の一助になるように全館共通で小中学生を対象にした「夏休み子どものフリースペース」を開設し、平成29年度より区内14館(生涯学習センター1館、地域学習センター13館)にて通年で開設している。

事業項目概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績(見込)	課題	
<p>学習活動推進</p> <p>【概要】 児童・親子を対象とした講座を実施し、学ぶ機会を提供する。</p>	<p>【実施回数】 延べ568回</p> <p>【参加人数】 延べ6,103人</p>	<p>【実施回数】 延べ629回</p> <p>【参加人数】 延べ8,013人</p>	<p>実施回数・参加者数共に、計画・予定数を上回った。</p> <p>コロナ禍でも集客を増やすこと。</p>	<p>コロナ禍における感染対策を徹底し、対面講座のほかオンライン等の開催など、学習センターが独自に工夫した講座や体験活動等の事業を実施し、学習機会の提供をしていく。</p>
<p>スポーツ活動推進</p> <p>【概要】 幼児から中学生、親子のスポーツの日常化・健康体力づくりを推進する。</p>	<p>【実施回数】 延べ215回</p> <p>【参加人数】 延べ4,934人</p>	<p>【実施回数】 延べ386回</p> <p>【参加者数】 延べ2,956人</p>	<p>実施回数は増えたが、コロナ禍で参加者は減少した。</p> <p>コロナ禍でも集客を増やすこと。</p>	<p>利用者のニーズに沿った事業計画を行い、参加者数の増を目指す。</p>

所管部署：地域のちから推進部

5 スポーツ振興事業

事業項目概要		令和3年度			今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題	
ジュニアスポーツ大会 【概要】 (1)軟式野球 (10/3～12/12)	【会場】 上沼田東公園野球場 他 【参加人数】 2,400名	【会場】 上沼田東公園野球場 他 【参加人数】 1,955名	当初予定していた日程は、緊急事態宣言期間中のため開催することができなかつた。しかし、この時点で中止決定とせず、代替日での開催に至り、子どもたちへ真剣勝負の場を提供することができた。	少子化により参加者が減少傾向にあったところ、コロナ禍による日頃の活動そのものの縮小も起きている。活動の場を提供するためにも、大会開催を継続するための対応が必要である。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
(2)卓球 (4/29)	【会場】 中央本町地域体育館 【参加人数】 250名	中止	コロナウイルス感染症の影響で中止した。	コロナ禍でも開催できるよう対策を講じる必要がある。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
(3)サッカー (10/3～11/7)	【会場】 舎人公園陸上競技場他 【参加数】 40チーム	中止	コロナウイルス感染症の影響で中止した。	コロナ禍でも開催できるよう対策を講じる必要がある。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
(4)ゴルフ (10/1)	【会場】 紫カントリー倶楽部 【参加人数】 40人	中止	コロナウイルス感染症の影響で中止した。	コロナ禍でも開催できるよう対策を講じる必要がある。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
(5)陸上競技 (10/9、10)	【会場】 舎人公園陸上競技場 【参加人数】 1,600人	中止	コロナウイルス感染症の影響で中止した。	コロナ禍でも開催できるよう対策を講じる必要がある。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。

所管部署：地域のちから推進部

5 スポーツ振興事業

事業項目概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績	評価	
(6)ミニバスケットボール (10/24, 31, 11/3)	【会場】 東和地域体育館他	【会場】 東和地域体育館他 【参加人数】 383人	前回大会と比較して参加者が微増。 多くの子どもたちに真剣勝負の場を提供することができた。 コロナウイルス感染症の影響で中止した。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
(7)スポーツカーニバル (11/21)	【会場】 総合スポーツセンター他 【参加人数】 700人	中止	コロナ禍でも開催できるよう対策を講じる必要がある。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。
(8)バドミントン (2/23, 27)	【会場】 中央本町地域体育館他	中止	まん延防止等重点措置期間中のため中止とした。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
(9)バレーボール (2/11, 3/6)	【会場】 総合スポーツセンター他 【参加人数】 男子120名 女子375名	中止	まん延防止等重点措置期間中のため中止とした。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
(10)トランポリン (3/20)	【会場】 総合スポーツセンター	中止	まん延防止等重点措置期間中のため中止とした。	コロナ対策を実施したうえで開催予定。同対策を記載した届出を必須とする。
子どものスポーツ・文化活動対策 学校開放 (4/1～3/31) ※学校閉庁日、年末年始を除く	開放校103校 小学校68校 中学校35校 8/12～8/15、年末年始12/28～1/5は利用中止	開放校103校 小学校68校 中学校35校 新型コロナウイルスの影響により令和3年4/25～6/20、7/12～9/30、令和4年1/21～3/21の間は利用中止 小学校368,384名 中学校97,106名	新型コロナウイルスの影響により約2年間十分な学校開放が行えていないため、地域住民の活動の場をどう提供するか。 長期(約半年)の間、活動ができなかったことで登録を廃止する団体が多く見られた。また、活動再開を望む声が多数あった。	学校開放は、学校施設の目的外使用である以上、学校の正常な運営が優先されることは致し方ない。 新型コロナウイルス感染症対策を行いながらできる限り活動を継続していく。

所管部署：地域のちから推進部

6 読書推進事業

事業項目概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績	課題	
(1)おはなし会 (通年)	【会場】 各図書館 【実施回数】 550回	【実施回数】 860回	感染拡大防止の観点から、会場の人数を制限や小規模での開催を必要とする必要がある。	小規模で複数回実施するなどの工夫をしながら実施していく。
(2)学校等出張おはなし会 (通年)	【会場】 小・中学校、施設等 【実施回数】 350回	【実施回数】 275回	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、依頼件数が減り、目標を下回った。	出張先の施設と連携し、感染予防対策を講じながら実施していく。
(3)こども映画会 (通年)	【会場】 各図書館 【実施回数】 65回	【実施回数】 120回	人数制限や事前予約制などの感染予防対策を講じながら実施し、目標を上回った。	小規模で複数回実施するなどの工夫をしながら実施していく。
(4)特集棚 【概要】 各時期にふさわしい内容の特集し、展示する。	【実施回数】 1,300回	【実施回数】 1,397回	区内の興味関心を引くテーマを設定する必要がある。	区内所管との連携を強化し、区民の興味関心を引くテーマを検討していく。
(5)講演会(講座含む) (通年)	【会場】 各図書館 【実施回数】 100回	【実施回数】 309回	人数制限や事前予約制などの感染予防対策を講じながら実施し、目標を上回った。	小規模で複数回実施することや、他分野との連携、さらにはオンラインを活用した事業を検討していく。
(6)職場体験 (通年)	【会場】 各図書館 【実施回数】 90回	【実施回数】 33回	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、受け入れ回数に目標を下回った。	学校と連携し、感染予防対策を講じながら実施していく。
(7)図書館見学 (通年)	【会場】 各図書館 【実施回数】 30回	【実施回数】 43回	人数制限や事前予約制などの感染予防対策を講じながら実施し、目標を上回った。	小規模で複数回実施するなどの工夫をしながら実施していく。

所管部署：地域のちから推進部

6 読書推進事業

令和3年度				課題	今後の展開
事業項目概要	計画・予定	実績	評価		
(8) あだちはじめてえほん(通年) 【概要】 3～4か月・1歳6か月健診時に絵本配付	【会場】 各保健センター等 【配付先】 3～4か月児・1歳6か月児健診時に絵本配付	【配付数】 ・3～4か月児健診対象者に3,387冊配付 ・1歳6か月児健診対象者に2,687冊配付	・3～4か月児健診対象者の約9割に健診会場で絵本を配付することができた。 ・1歳6か月児健診対象者の約6割弱に図書館、児童館、子育てサロンで絵本を配付することができた。	・3～4か月児健診 健診中止(1～3月)により、絵本を配付できていない対象者がいる。 ・1歳6か月児健診 感染拡大の影響により、絵本を受け取りに來ない傾向にある。	あだち広報やミニコミ紙、HP・SNSを活用し絵本配付を幅広くPRしていく。 対象世帯が利用する施設でも掲示を行い、身近な場所で受け取れることをPRしていく。
(9) 読書週間・季節のイベント・工作(春・秋)	【実施回数】 250回 (各図書館合計)	【実施回数】 238回	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、目標を下回った。	物品(ハサミ、鉛筆など)を共用しないなどの感染予防策を講じながら実施していく必要がある。	参加者が1人でも取り組める内容や、自宅に持ち帰って楽しめる内容を検討していく。
(10) 一日図書館員(主に夏)	【実施日数】 18回 (各図書館合計)	【実施回数】 28回	人数制限や事前予約制などの感染予防策を講じながら実施し、目標を上回った。	感染拡大防止の観点から、会場の人数を制限や小規模での開催をする必要がある。	人数を制限して回数を増やすなどの工夫をしながら実施していく。
(11) 学校図書館ボランティア養成講座 【概要】 学校図書館において、読書活動を推進していくボランティアを養成する。	【実施回数】 3回	【実施回数】 4回	延べ64人が参加。ボランティアにアンケートを実施し、要望のあった本の修繕に関する講座を実施することができた。	ボランティアの活動状況を把握し、活動に役立つ講座を開催していく必要がある。	講座開催時にアンケートなどを実施し、ボランティアの活動状況やニーズを把握しながら講座の企画を検討していく。

所管部署：産業経済部

事業項目概要		令和3年度		今後の展開	
計画・予定	実績	課題	評価	課題	今後の展開
<p>【配布数】 1,850冊</p>	<p>【配布数】 1,738冊 (8校)</p>	<p>11校のうち、3校が配布を希望しなかつたため、予定数には達しなかつたが、消費者被害未然・拡大防止への周知啓発を行うことができた。</p>	<p>区内高校1年生を対象に「若者向け啓発用リーフレットの配布を継続する。リーフレットや相談事例集を活用した消費者教室(出前講座)の実施を各校に案内していく。</p>	<p>消費者被害を防止するためには、早期に消費者トラブルの知識を習得することが重要である。</p>	<p>区内高校1年生を対象に「若者向け啓発用リーフレット」の配布を継続する。リーフレットや相談事例集を活用した消費者教室(出前講座)の実施を各校に案内していく。</p>
<p>【配布数】 高校4,000冊 大学1,200冊</p>	<p>【配布数】 4,702冊 (11校) 4,700冊 (6校) 計9,402冊</p>	<p>区内大学へは大学連携担当に調整を依頼したことで全ての区内高校・大学に配布することができ、配布数も予定を上回った。</p>	<p>リーフレット・相談事例集を活用した消費者教室(出前講座)の実施を各校に案内していく。</p>	<p>若者向け相談事例集を配布するだけでは、知識を深く習得するのは困難である。</p>	<p>リーフレット・相談事例集を活用した消費者教室(出前講座)の実施を各校に案内していく。</p>
<p>【配布数】 2,500部</p>	<p>【配布数】 2,500部</p>	<p>予定通り区内施設等に配布した。</p>	<p>区内施設への配布のみだと、若者の手元まで行き届きにくい。</p>	<p>時勢によってトラブルの手口が変化するため、最新の事例を情報提供する必要がある。</p>	<p>SNSなどを活用し、若者向けに最新の事例を情報提供する。</p>
<p>【配布数】 2,500部</p>	<p>【配布数】 2,500部</p>	<p>予定通り区内施設等に配布した。</p>	<p>予通配布だけでなく、区HPや広報などでも啓発を行った。</p>	<p>若年者の主な情報収集源であるSNSなどの活用を検討する。増刷するなどして、高校や大学などに直接配布するなどの配布方法を検討する。</p>	<p>若年者の主な情報収集源であるSNSなどの活用を検討する。増刷するなどして、高校や大学などに直接配布するなどの配布方法を検討する。</p>

所管部署：産業経済部

事業項目概要		令和3年度			今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題	
<p>消費者教室(講師派遣)</p> <p>【概要】区内高校や大学の消費生活問題の学習会に講師(消費者センター・消費生活相談員もしくは職員)を派遣する。</p>	<p>要請に応じて随時派遣</p>	<p>【実施回数】1回</p> <p>【受講者】足立高校 1年生</p> <p>【参加人数】274人(オンライン開催)</p> <p>帝京科学大学からも申込があったが、緊急事態宣言期間中であったため中止となった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、大学での教室は中止となったが、高校においてオンライン形式で実施できた。</p>	<p>コロナ禍でも開催できる方法を検討する必要がある。</p>	<p>オンラインを活用しコロナ禍でも開催できるように実施方法や資料を整備する。</p>
<p>マンスリー就職面接会</p> <p>【概要】ハローワーク足立・荒川区との共催による就職面接会</p>	<p>【会場】足立区または荒川区内</p> <p>【開催時期】R3 11/18 R3 12/14 R4 3/16</p>	<p>【参加者・参加企業数】11/18 49人 10社 足立区(東京芸術センター)</p> <p>12/14 41人 8社 荒川区(センターまちや)</p> <p>3/16 47人 9社 足立区(東京芸術センター)</p>	<p>コロナ禍で実施するため、事前予約制とした結果、139名参加となった。そのうち採用につながったのは24名であった。</p>	<p>コロナ禍でも中止するのではなく、実施方法の工夫や状況に応じ開催時期を検討していく。</p>	<p>リーフレット・相談事例集を活用した消費者教室(出前講座)の実施を各校に案内していく。</p>
<p>高校生向け合同企業説明会(10/29)</p> <p>【概要】ハローワーク足立・上野・墨田と足立区の共催による説明会</p>	<p>【会場】東京芸術センター</p> <p>【開催時期】R3 10/29</p>	<p>【参加者・参加企業数】高校生 22人 企業 10社</p>	<p>コロナ禍で前期は中止となった。また、6/18に予定していた「新規高等学校卒業生就職対策連絡会議」も中止となった。</p>	<p>前期・後期の2回開催と連絡会議による情報共有の機会をハローワークに働きかける。</p>	<p>令和4年度は、7月13日と10月28日に開催予定。</p>
<p>高校生向け企業見学会・職業人講話</p> <p>【概要】足立工業高校が区内中小企業人材確保支援事業の一環として実施</p>	<p>【会場】足立工業高校</p> <p>【開催時期】R4 3/23</p>	<p>【対象】第1学年</p> <p>【講話】株式会社トミアック 株式会社横引き シャッター *オンラインで実施</p>	<p>働くことの意義や社会人としての在り方等の講話に生徒はもとより、先生方も引き込まれ、指導の一助となつたとの感想をいただいた。</p>	<p>区内高校への積極的な事業案内を行い事業実施につなぐ。</p>	<p>区内高校への積極的な事業案内を行い事業実施につなぐ。オンライン実施を検討する。</p>

所管部署：福祉部

第71回社会を明るくする運動(強調月間 令和3年7月1日から7月31日)

- 1 主催：社会を明るくする運動足立区推進委員会
 足立区、足立区教育委員会、足立区保護司会、足立区保護観察協会、足立区更生保護女性会、足立区社会福祉協議会、足立区BBS会、足立区桐友会
- 2 重点事項
 犯罪や非行をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、
 (1) 出所者等の事情を理解した上で雇用する企業の数を増やすこと。
 (2) 帰るべき場所がないまま、刑務所から社会に戻る人の数を減らすこと。
 (3) 薬物依存からの回復と社会復帰を長期的に支える地域の環境を作ること。
 (4) 犯罪をした高齢者・障がい者等が、社会復帰に必要な支援を受けられる環境を作ること。
 (5) 非行少年が学びを継続できる環境を作ること。

事業項目概要		令和3年度		今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題
<p>駅頭広報活動</p> <p>【概要】 社会を明るくする運動グッズ(応急バン、風船等)を配付</p>	<p>【会場】 区内5駅(北千住、綾瀬、西新井、竹ノ塚、五反野)</p> <p>【参加者】 保護司会、更生保護女性会、桐友会、警察署、区職員</p>	<p>中止</p>	<p>コロナ禍により中止をせざるを得なかった。</p>	<p>コロナ禍での広報活動について、実施できる内容の検討が必要である。</p>
<p>親子ふれあい将棋教室</p> <p>【概要】 小学生を対象に親子で、将棋の所作や楽しさを体験。プロ棋士より、所作の指導を受け、対戦も行う。</p>	<p>【会場】 ギャラクシアンティ</p> <p>【参加人数】 小学生親子 16組32名</p>	<p>中止</p>	<p>開催可否について間際まで検討したが開催できなかつたことは残念である。</p>	<p>コロナ禍により開催できていない。代替や実施できる内容の検討が必要である。</p>
<p>第71回社会を明るくする運動「区民の集い」</p> <p>【概要】 民間協力団体への感謝状贈呈、中学生標語ほか</p>	<p>【会場】 竹の塚地域学習センター</p>	<p>中止</p>	<p>コロナ禍により中止をせざるを得なかった。表彰対象者へは賞状・記念品を渡した。</p>	<p>コロナウイルス感染拡大により実施ができていない。表彰対象者に賞状等を個別に渡すなどの対応をすることに留まっている。</p>

所管部署：衛生部

1 学童期・思春期・青年期の健康づくり

令和3年度				今後の展開
事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題
<p>「SOSの出し方教育」</p> <p>【概要】 学校等が連携して実施し、自分や友人が命や暮らしの危機に陥ったときに、誰にどう助けを求めればいいのか、SOSの出し方やSOSを伝える相手について生徒に教え、自らの命を守るためのスキルを身に付ける支援を行う。</p>	<p>高校生等向け 【実施校】 数校</p> <p>小中学生向け 【実施校】 区内全校</p>	<p>高校生等向け 【実施校】 0校</p> <p>小中学生向け 【実施校】 区内小学校31校 (教員実施18校、保健師実施13校)</p> <p>区内中学校9校 (教員実施4校、保健師実施5校)</p>	<p>高校に対しては、授業の周知と実施意向調査を行ったが、コロナ禍による分散登校等もあり実施に至らなかった。</p> <p>小中学生に対しては、分散登校による延期等もあったが、感染に配慮しながら実施を進めることができた。</p>	<p>継続した実施に向けて高校担当者との連携や、教員向けゲートキーパー研修の内容を工夫していく。</p>
<p>「デイケア」</p> <p>【概要】 コミュニケーション能力の改善をはかり、社会参加、社会復帰する事を目的に、グループミーティング、調理、スポーツ等のプログラムを実施。</p> <p>(登録制：対人関係が苦手な思春期・青年期の若者)</p>	<p>【会場】 竹の家保健センター</p> <p>【実施回数】 週2回</p> <p>【定員】 15名</p>	<p>【参加者数】 実人員 14人 延べ人数 344人</p>	<p>コロナ禍での事業休止や実施回数減の期間中においても、週1回電話連絡を行い、支援を継続した。</p> <p>また、就労支援事業所の協力により職業能力評価の新しいプログラムを実施し、就労に向けた準備に取り組めた。</p>	<p>対人関係が苦手な思春期・青年期の方が、社会参加のきっかけづくりとなる「デイケア」へつながる支援を、地区担当や他機関等と連携して実施していく。</p>
			<p>学校での実施数を増やしていくために、教育指導課や高校との連携が必要である。</p>	<p>コロナ禍においても、参加者の社会参加・社会復帰に有用な内容のプログラムを検討する。</p>

所管部署：衛生部

1 学童期・思春期・青年期の健康づくり

令和3年度		課 題		課 題		課 題	
事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題	課題	今後の展開	今後の展開
<p>思春期ネットワーク連絡会</p> <p>【概要】思春期の課題解決に向け、保健・医療・福祉等の関係者が集まり、情報交換、学習会、意見交換、困難事例への連携した取り組み等実施。(管内学校、医療機関、福祉事務所、子ども支援センターげんき、児童相談所、民生委員等)</p>	<p>【会場】各保健センター等</p> <p>【実施回数】各会場年1～2回</p>	<p>【実施回数】0回</p>	<p>コロナウイルス蔓延防止のため、全ての保健センターで開催が出来なかった。</p>	<p>コロナ禍においても関係機関が集まりやすい開催形態を模索する必要がある。</p>	<p>各保健センターにおいて、地域の特性を踏まえた「顔の見えるネットワークづくり」を目指した連絡会を開催していく。思春期に多いゲーム・インターネット依存などの課題に対し、関係機関との情報共有や対応について連携していく。</p>	<p>各保健センターにおいて、地域の特性を踏まえた「顔の見えるネットワークづくり」を目指した連絡会を開催していく。思春期に多いゲーム・インターネット依存などの課題に対し、関係機関との情報共有や対応について連携していく。</p>	<p>各保健センターにおいて、地域の特性を踏まえた「顔の見えるネットワークづくり」を目指した連絡会を開催していく。思春期に多いゲーム・インターネット依存などの課題に対し、関係機関との情報共有や対応について連携していく。</p>
<p>学校保健との連携による学習会</p> <p>【概要】学校保健と連携し、児童・生徒・学生に対し生活習慣病予防や喫煙・飲酒・薬物・性の問題などについて情報提供を行い、正しい判断ができるよう、学習会や講演会等実施。(対象：小・中・高等学校、PTA、大学等)</p>	<p>【会場】各保健センター、各学校等</p> <p>【実施回数】各会場年数回</p>	<p>【実施校】区内高校 3校</p>	<p>コロナ禍での生活様式の変化に合わせた生活習慣病予防の健康教育を実施し、ベジファースト等、具体的な行動変容につながる内容も取り入れられた。</p>	<p>学校が感じている生徒の健康課題を取り入れた健康教育の内容としていく必要がある。</p>	<p>学校と健康課題を共有しながら、講義内容を決め、感染状況を考慮した方法での継続実施する。</p>	<p>学校と健康課題を共有しながら、講義内容を決め、感染状況を考慮した方法での継続実施する。</p>	<p>学校と健康課題を共有しながら、講義内容を決め、感染状況を考慮した方法での継続実施する。</p>

所管部署：衛生部

2 地域の子育て支援活動の推進

		令和3年度				
事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題	今後の展開	
<p>こんにちは赤ちゃん訪問事業の実施【概要】</p> <p>生後3か月までの乳児のいる全ての家庭を対象に保健師または助産師が訪問し、発育・発達相談、子育てのアドバイスや情報提供、育児不安の軽減を行い、健やかな子どもの成長を支援(対象:生後3か月以内の乳児)</p>	<p>年間を通して各保健センター等で随時実施</p>	<p>3,551人(R4.4.15現在)</p> <p>※確定は8月中旬</p>	<p>訪問希望者に対する訪問率は各年99%台と高い割合を維持している。</p> <p>赤ちゃん訪問申込はがき未提出者に対しては、保健師が電話や通知(訪問申込はがき同封)等による勧奨を強化した。</p> <p>また、コロナ禍において訪問をためらう世帯には、電話相談を実施するなど状況に応じ適切に対応した。</p>	<p>乳児の発育状況の確認及び育児不安のピークが1～2か月と言われているなか母親のメンタルフォローの場にもなっている。</p> <p>虐待につながる要因を早期発見することで虐待を未然に防止する効果があるため、より多くの家庭で実施していく必要がある。</p>	<p>コミュニケーションツールとして、エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)を活用し、出産後の心理・生活状況の把握を行い、支援が必要な方には産後ケアなどの必要な事業につないでいく。</p> <p>引き続き、丁寧なきめ細かい支援を行いながら、産後うつ等になりやすい時期に相談にのることで、母親の育児不安解消と虐待の未然防止に努めていく。</p> <p>必要に応じ、関係機関につないでいく。</p>	
<p>健やか親子相談の充実【概要】</p> <p>育児不安の強い乳児期を中心に、身体計測、個別相談、グループワーク等を行い、育児不安の軽減と友達作りを支援(対象:生後1歳未満)</p>	<p>【会場】各保健センター等、住区センター等</p> <p>【実施回数】各会場月1～2回程度</p>	<p>【実施回数】104回</p> <p>【参加者数】1,062人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、当初の予定より実施回数は減少したが、育児不安を軽減するために、十分な感染防止対策をとって実施した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大で中止をすると、母親が相談のため気軽に来所できる場や機会が失われてしまう。</p>	<p>グループワークや交流の実施はコロナ禍においては困難ではあるが、感染防止対策をしながら、できる限り個別で実施していく。</p> <p>また、個別の育児栄養相談の案内など、発育・発達・育児に関する相談を引き続き継続していく。</p>	
<p>子育てグループの育成支援【概要】</p> <p>仲間づくりを通じて、孤立や育児不安の軽減を図る事を目的に、育児グループを育成し活動を支援(双子の会、ファミリー学級O日会、母乳育児の会等)</p>	<p>年間を通して各保健センター等で随時実施</p>	<p>【実施回数】2回</p> <p>【参加者数】28人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度は中止、令和3年度は2回の実施となった。</p>	<p>先輩ママ・パパの体験談を聞いたり、同じ境遇の母親同士が、子育ての不安や悩みを共有できる機会となっっているため、再開が待たれる。</p>	<p>コロナの感染状況を注視し、参加者のニーズや再開のタイミングを見極めていく。</p>	

所管部署：衛生部

2 地域の子育て支援活動の推進

		令和3年度			今後の展開
事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題	
<p>すこやか親子ネットワーク連絡会</p> <p>【概要】</p> <p>子育ての孤立化を予防し、子どもの健全な育成のため、保健・医療・福祉等の関係者が集まり、情報交換、学習、意見交換、虐待予防等への連携した取り組みを実施(管内保育園、医療機関、児童館、こども支援センター、子育て支援センター、子育てアドバイザー等)</p>	<p>【会場】</p> <p>各保健センター等</p> <p>【実施回数】</p> <p>各会場年2～4回</p>	<p>未実施(新型コロナウイルス感染症拡大により中止)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度に続き、令和3年度は中止となった。</p>	<p>区の母子保健事業や個別の母親支援をスムーズに行うためにも、関係機関との連携は必要である。連絡会で顔の見える関係づくりができないことが課題である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、連絡会を開催できない場合でも、日頃の電話連絡や情報共有を密に行い、連携を深めていく。</p> <p>また、集合での開催が難しい場合でも、書面開催にするなどの工夫をして、関係機関・団体とのつながりを継続していく。</p>
<p>講演会や育児教室の開催</p> <p>【概要】</p> <p>親子の健康づくりの一環として地域の課題や関心のあるテーマで開催(対象:乳幼児)</p>	<p>【会場】</p> <p>各保健センター等、住区センター</p> <p>【実施回数】</p> <p>各会場年10～20回</p>	<p>【実施回数】</p> <p>3回</p> <p>【参加者数】</p> <p>30人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、集団で行う講演会や教室は中止としたため、令和3年度は3回のみの実施となった。</p>	<p>大人数の対象者に対して、母乳育児や卒乳、子どもの発育・発達、生活習慣など、育児に関する知識を提供する大切な機会が減少している。</p>	<p>区ホームページにおいて、専門機関のホームページへリンクを貼っていることを効果的に周知するなど、コロナ禍においても学習機会などの情報提供を適切に行っていく。</p>

所管部署：都市建設部

1 交通安全意識の啓発

事業項目 概要	令和3年度				今後の展開
	計画・予定	実績(見込)	評価	課題	
交通安全運動の推進	(1)交通安全運動期間中(春・秋)に町会・自治会・青少年センター、チャラシ、交通安全標語のたれ幕を配付 (2)交通安全運動期間中(春・秋)に交通安全パネル展(区役所ロビー)を開催する。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、町会・自治会によるテント設置及びテント訪問を中止した。 秋の交通安全運動期間については実施できなかったが、パネル展と同時に開催している交通安全ポスターコンクールはアリオ西新井を会場に実施した。	町会・自治会にテント設置の中止要請を行ったが、ポスター、チャラシ、交通安全標語のたれ幕は郵送等により配付し、啓発を行った。	テント設置ができない場合でも、交通安全意識の啓発を促していく必要がある。 ロビー以外での展示方法や小規模でも展示を行うなど工夫する必要がある。	啓発に繋がるよう引き続き配付物品を工夫していく。 また、テントの設置については、令和元年度から自粛を要請しているが、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、引き続き検討していく。
子どもに対する交通安全意識の啓発	(1)保育園・幼稚園で交通安全教室を実施し園児に反射材を配付する。 (2)新入学児童へ交通安全教材(交通安全冊子、反射材、下敷き)を配付する。配付予定数は約5,000部。 (3)秋に小・中学生の交通安全ポスターコンクールを開催する。	教室の開催時期とまん延防止等重点措置期間が重複したため、教室の中止が相次いだ。 新入学児童へ交通安全教材(交通安全冊子、反射材、下敷き)を5,000部配付した。 ワクチン接種のため庁舎ロビーが使用できなかったが、代替としてアリオ西新井で開催した。	教室が中止となった園には反射材などを配付し、交通安全に対する啓発を促した。 他の教材等の配付物と一緒に教育指導課を通じて、予定通り、配付できた。 アリオ西新井で実施することで、より多くの区民に見てもらおうとができ、交通安全意識の啓発に繋がった。	保育園等での新型コロナウイルス感染が拡大し、教室の実施が困難であった。 状況に応じて、教材を見直していく必要がある。 展示場所や方法を工夫していく必要がある。	教室が中止となった場合でも代替措置がとれるよう工夫していく。 園児向けが難しいようであれば、保護者向けに実施し、家庭においても啓発ができるよう働きかける。 引き続き、新入学児童へ交通安全教材を配付し、啓発を行う。なお、交通安全教材については、適宜見直しを行っていく。 展示方法など工夫しながら実施する。また、入賞作品を社会実験バスに展示するなど、新たな方法で啓発を促す。
自転車安全運転免許証発行 【概要】 警察署と共に小学3年生を対象に自転車教室を実施し、写真付き免許証を発行する。	【実施校】 区内全小学校	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモート講義やDVD視聴など工夫をして、区内全小学校で実施し、5,126名に免許証を発行した。	実施時期を再調整し、またリモート講義などを活用し、新しい生活様式にあった事業を展開できた。 また、一部学校では実技を実施することもできた。	校数が多いため、新型コロナウイルスの影響による実施時期の再調整が困難である。 夏休み前に実施したいが、2年連続で夏休み後の実施となっている。	引き続き、新しい生活様式にあった事業展開を行う。

所管部署：都市建設部

1 交通安全意識の啓発

事業項目 概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績(見込)	課題	
<p>体験型交通安全教室 【概要】 スタントマンによる 交通事故再現を観る 体験教室を区内中 学・高校で実施する。</p>	<p>【実施校】 中学校12校 高校1校 区内公立中学・高校に 於いて3年間でひとま わりするように実施</p>	<p>【実施校】 区内中学校11校 高校1校 【参加者数】 5,545名</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、 予定していた中学校1校で実施 できなかつたが、時期を変更し 警察署主催のスタントマン教室 が開催されたことで、結果として 予定された全カ所実施すること ができた。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染防止に注意を 払い、DVDを活用するなど代替措置を検討 しながら実施していく。</p>
<p>自転車シミュレーター 【概要】 区民まつりにおいて 来場した小学生等に 向けて、自転車シミュ レーター体験コーナ ーを実施する。</p>	<p>区民まつり、千本桜ま つり、しようぶまつりで 実施</p>	<p>区民まつり等各種イベ ントが中止となったため、 自転車シミュレーター 体験コーナーは未実施で あった。</p>	<p>実施できたとしても、不特定多数が自 転車体験を行う可能性があるため、新型 コロナウイルスの感染防止に注意が必要 である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染状況を見ながら、 実施する際には予防対策を十分とって行う。</p>

所管部署：都市建設部

2 学校外活動の支援

令和3年度				
事業項目 概要	計画・予定	実績	課題	
			評価	今後の展開
<p>ぼうげんあそび (生物園) 【概要】 その日集まった参加者たちと工夫しながら元洲江公園で様々なあそびを行う。</p>	<p>毎週水曜日 13:30-16:30※の間 で30分おき 毎月第2・第4土曜日 10:30-16:30※の間 で30分おき ※11月～2月は16: 00終了 各回定員5名</p>	<p>【実施回数】 56回(中止20回) 【参加人数】 子ども 1281名</p>	<p>感染症拡大防止のための中止やあそびの制約があったが、実施回については一定の満足度を得られた。参加者が次の開催日にクラスを誘ってくださることも多く、少しずつ地域に浸透してきていると感じる。</p>	<p>感染症拡大防止による制約の中で、あそびの自由度や幅を広げたい。</p>
<p>公園・緑地の整備 【概要】 緑を保全し地球環境の整備につとめ、青少年をはじめとする区民の憩いの場とし、改良・整備を推進している。</p>	<p>公園 344か所 児童遊園 147か所 河川敷緑地 6か所</p>	<p>公園・緑地の改良・整備 9か所</p>	<p>簡易補修への振り替え、都施工による遅延などから、予定数量に満たなかった。</p>	<p>感染症拡大防止の際に不要となる遊具は、他の公園での活用を検討し、予算の圧縮を図る。</p>
			<p>持続可能な公園運営を推進するため、改修経費を抑制する必要がある。</p>	<p>公園改良の際に不要となる遊具は、他の公園での活用を検討し、予算の圧縮を図る。</p>
			<p>設計における意見収集において、調査相手や時間帯が限定される。</p>	<p>広く意見収集が行えるよう現地調査だけでなく、ホームページからも収集を行っていく。</p>

所管部署：教育指導部

生活指導連絡会

令和3年度			
事業項目概要	計画・予定	実績	評価
<p>小学校・中学校 「生活指導主任連絡会」 (4月～3月) 【概要】 区内全小中学校(104校)の生活指導主任、小中学校の生活指導担当校長で構成</p>	<p>【実施回数】 小学校 年5回 中学校 年11回 ＜教育委員会から情報提供及び注意喚起＞ ・いじめの状況・不登校の状況・交通安全・犯罪被害防止・熱中症対策等 ・人権教育・安全教育・SNSルール・事故等発生状況・新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別の防止 等</p>	<p>【実施回数】 小学校 年3回 中学校 年11回 小学校2回は中止</p>	<p>区立小中学校の総勢104人の生活指導主任が一堂に介して生活指導、生徒指導に関する情報交換をし、指導事例等を横展開できた。 台東少年センター担当者、区内4警察担当者がそろって学校に情報提供していた。小中合同実施の際は、各会研修講師を招聘し、「減災教育」「性の多様性」等について研修を行えた。</p>
			<p>小中それぞれの内容を各分科会に任せてしまっていたので、教育指導課として、情報の集約がうまくできなかつた。</p>
			<p>分科会の際、その時の区の課題を議題として分科会で協議できるようにする。課題に対して、各校の現状を教育指導課で把握することで、施策の立案や学校への指導、助言への一助とする。</p>
			<p>今後の展開</p>

所管部署：学校運営部

事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題	今後の展開
<p>開かれた学校づくり【概要】 地域・家庭・学校の協働・協創により、地域性を活かした特色ある学校づくりを進める取り組みである。 この取り組みを推進するため、地域・家庭・学校の代表者からなる「開かれた学校づくり協議会」(以下、「協議会」)を設置し、全小・中学校で様々な活動を展開している(小中一貫校には1協議会が設置されている)。 また、地域・家庭による学校運営への積極的な参画を促すため、協議会に学校運営協議会機能を付加した「足立区版開かれた学校づくり協議会型CS」の設置拡大に取り組んでいる。</p>	<p>【学校運営協議会設置校(CS)数】 13校 ※毎年1校ずつを目標に学校運営協議会設置校を増やす。</p>	<p>【学校運営協議会設置校(CS)数】 13校 ※令和3年度CS化花保中学校(R3.4.1) ※令和4年3月31日現在のCS設置校は13校(小学校8校、中学校5校)。</p>	<p>1校増という目標は達成できた。ただし、CS推進校としてCS化を目指していた鹿浜第一小学校と関原小学校に意向を確認したところ、推進校解除の申し出があり、解除することとなった。 令和4年度以降の取り組みに影響を及ぼすものと考えられる。</p>	<p>CS化が進まない理由として、「開かれた学校づくり協議会が十分機能しているから」との声が多く上がっている。 そのため、開かれた学校づくり協議会とCSの機能の違いについての理解を深め、不安感・負担感の解消を図る必要がある。</p>	<p>今後の展開 CS化に興味を示している学校には、個別に内容やメリットを説明するなど、引き続き開かれた学校づくり協議会に対し、CS化を促していく。</p>

所管部署：学校運営部

事業項目 概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績	評価	
<p>あだち放課後子ども教室</p> <p>【概要】 放課後の安全安心な居場所を設け、子どもたちのたくましく生き抜く力を地域で育む環境づくりとして、生涯学習振興公社と協働して事業を推進しており、平成22年度からは小学校全校で実施している。</p>	<p>【年間延開催日数】 10,000日</p> <p>【年間延参加児童数】 600,000人</p> <p>【登録率】 90.0%</p> <p>【全学年実施校数】 68校</p>	<p>【年間延開催日数】 6,214日</p> <p>【年間延参加児童数】 205,887人</p> <p>【登録率】 82.9%</p> <p>【全学年実施校数】 68校</p>	<p>(1)年間延開催日数及び延参加児童数は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一時休止した放課後子ども教室があり、減少した。</p> <p>(2)登録率は、1年生の受入れが進んでいない学校もあり、下がってしまった。</p> <p>(3)全学年実施については、残り1校となった綾瀬小学校の実行委員会に対し協議を進めた。</p>	<p>緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の発出時においても、学校運営が継続される場合、感染症対策を講じたうえで実施するよう実行委員会へ要請していく。</p> <p>休止した放課後子ども教室への対応と再開後の支援を行っていく。</p> <p>引き続き、マスク着用、消毒、密集回避などの基本的な感染症対策について実践していく。</p> <p>綾瀬小学校の実行委員会と協議を進め、令和4年度中に全学年実施を目指す。</p>
			<p>課題</p> <p>感染症対策を講じたうえで実施するよう実行委員会へ要請したが、実行委員会の判断を尊重したため、自主的に休止した放課後子ども教室が多数あった。</p> <p>感染症対策として、活動日の学年分けや会場を限定するなど、密にならない活動内容にする状況が続いている。</p> <p>感染症対策を優先するため、1年生の受入れが進んでいない学校があった。</p> <p>綾瀬小学校の実行委員会と協議を進めたが、最終的に全学年実施には至らなかった。</p>	

所管部署：子ども家庭部

1 家庭教育の振興

事業項目概要		令和3年度			今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題	
<p>子育て仲間づくり活動補助事業</p> <p>【概要】 保育園、認定子ども園、私立幼稚園、児童館等の乳幼児自主活動グループ等に補助金を支出。就学前の子どもの保護者を対象に、乳幼児からの家庭教育の重要性を啓発し、人間力を育成。</p>	<p>【補助団体数】 48団体</p> <p>各団体は、年6回以内(学習活動3回、交流活動3回)での活動実施。</p>	<p>【補助団体数】 7団体</p> <p>【活動数】 延べ17回開催</p>	<p>申込数は少なかったが、意欲的な保護者が多く、自分たちがやりたいことを選び、活動して、「家庭での教育」という観点や意義が伝わっていると思われる。</p>	<p>コロナ禍の影響で、申込数が減少している。</p>	<p>オンラインを活用した、学習活動の開催など工夫した取り組み事例の紹介などを行う。</p>
<p>子育てアドバイザーネットワーク補助事業</p> <p>【概要】 子育てアドバイザー養成講座を修了したボランティアが、親子を対象とした絵本読み語り、食育講座、親子ふれあいの場の提供などの親子を対象とした事業実施。</p>	<p>【活動回数】 地域活動 115回 食育講座 2回 ブログ活動 12回</p>	<p>【活動回数】 地域活動 24回 食育講座 0回 ブログ活動 17回</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による制限がある中でも利用人数や利用時間の工夫をして、乳児を育てている保護者のために講座を開催した。 食育講座は料理室が貸し出されなかったため、開催ができず残念だった。</p>	<p>コロナ禍の影響で、実施回数が減少している。</p>	<p>少人数の講座を活動の中心としていき、実施回数を増加できるように工夫する。</p>
<p>毎月第3土曜日「あだち家族ふれあいの日」事業</p> <p>【概要】 家族との大切さや親子の絆を深める機会として毎月第3土曜日を家族ふれあいの日とし、親子のふれあいの場や仲間づくりの場を提供する。</p>	<p>【利用人数】 103,249人 区内施設を無料開放、区内ボウリング場(1か所)、区内銭湯(28か所)を割引利用でき、子育て中の家庭を支援。毎月第3土曜日開催(銭湯は第1土曜日も開催)</p>	<p>【利用人数】 49,615人 (内訳) 大人 25,887人 子ども 23,728人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により休館日も多かつたため、利用人数は平常時よりは少なかつた。</p>	<p>自粛期間が長かつたため、積極的に周知することができず、利用人数を伸ばすことができなかつた。</p>	<p>SNSなどを活用し、周知の機会を増やしていき、利用人数の増加を図る。</p>

所管部署：子ども家庭部

1 家庭教育の振興

事業項目概要		令和3年度		課題	今後の展開
計画・予定	実績	評価			
<p>【参加人数】 大人 580人 子ども 580人 幼児 580人</p>	<p>中止</p>	<p>緊急事態宣言や、まん延防止重点措置の期間が長く、開催できなかつた。</p>		<p>コロナウイルス感染症蔓延のため中止となり、啓発活動ができなかつた。</p>	<p>参加人数や時間の制限をしながら「ゴミを拾って銭湯へ」の活動を行えるよう検討して行く。</p>
<p>【概要】 「ゴミを拾って銭湯へ」の活動をしながら、地域の子ども110番の避難場所の啓発を行う。</p>	<p>【利用人数】 大人 6,960人 子ども 6,960人 乳幼児 3,480人 ・マナー教室開催 ・リーフレットを作成</p>	<p>【利用人数】 大人 4,104人 子ども 2,187人 乳幼児 1,405人 ・リーフレットを作成</p>	<p>8月の銭湯料金の値上げが利用者数に影響することが心配されたが、値上げによる減少は見られなかつた。 ふれあいの日を楽しみに利用している家族が一定数いると思われる。</p>	<p>コロナウイルス感染症蔓延の影響により、利用人数が減少している。</p>	<p>公衆浴場を利用しなくても公衆道徳を学べる手段として、マナーリーフレットを使って、マナー講座を開催したり、SNSで知らせるなど活用方法を工夫していく。</p>
<p>【概要】 毎月第1・3土曜日を「ふれあいの日」として、公衆浴場割引利用。公衆道徳の向上と大人と子どもが交流する機会を提供。</p>	<p>【利用人数】 4,524人 効果的な周知方法を検討する。</p>	<p>【利用人数】 14,377人</p>	<p>感染症による自粛の影響もあるのか、高校生が新たな居場所として友人と一緒に来るようになっている。 顔馴染みとなって店主とのコミュニケーションの中でマナーを教えられながら良い関係も築けている。</p>	<p>周囲の大人から中高生が学びを得ることには限度があり、しっかりと学びを得る機会の提供が必要である。</p>	<p>マナーリーフレットを活用し、銭湯に来た中高生にマナー講座を開催する。また、SNSの活用した方法を検討していく。</p>

所管部署：子ども家庭部

2 青少年健全育成事業

令和3年度			
事業項目概要	計画・予定	実績	課題
<p>中高生の居場所づくり</p> <p>【概要】 地域団体や施設と連携し、中高生のための居場所を継続して開催しながら、居場所所で体験できる活動内容の充実を図る。</p>	<p>【実施回数】 新田ジュニアリーダークラブ 12回(新田住区センター) ふらっとトビスペース新田 毎週水、日曜日(新田・地域学習センターおよび新田住区センター)</p>	<p>新田ジュニアリーダークラブ 【実施回数】 6回 【参加人数】 延べ52人 ふらっとトビスペース新田 【実施回数】 35回 【参加人数】 延べ42人</p>	<p>ふらっとトビスペースの水曜日の利用率が低い。</p>
<p>地域で子どもにかかわる人材育成</p> <p>【概要】 子どもにかかわる大人が、交流し連携できる仕組みづくりを進める目的で特営非営利活動法人足立区地域で子どもを育てる会(あちこち会)が講座を開催している。</p>	<p>【科学工作講座】 【プログラミング講座】 【ブロック講座】 【星空観察】 定員は全て10組</p>	<p>コロナ禍のため中止とした。</p>	<p>この講座は参加するだけではなく、その後の実践の場(親子科学体験講座等スタッフ)の提供も行っている。 利用人数や利用時間の制限を行いながら開催していく。</p>
<p>子どもの安全安心プロジェクト</p> <p>【概要】 子どもの自己防衛力を高めるために、演劇プログラムを開発し、セーフティ教室などでプログラムを実施している。プロの劇団と区民劇団が協力して上演している。</p>	<p>【実施回数】 小学校 16校 中学校 4校 保育園 44園</p>	<p>【実施回数】 小学校 16校 3789人 中学校 3校 1319人 保育園 22園 756人</p>	<p>コロナ対応については、利用人数や利用時間の制限を行っているが、状況を見ながら適正に実施していく。</p>

所管部署：子ども家庭部

2 青少年健全育成事業

令和3年度 評価				課題	今後の展開
事業項目概要	計画・予定	実績	評価	課題	今後の展開
<p>ジュニアリーダー研修会(9～12月)</p> <p>【概要】子ども自身の主体的活動を促進し、地域で活動できるジュニアリーダーを養成する。</p> <p>ジュニアリーダー研修会の会場責任者と協同して、地区少年団協議会(地少協)30団体が各々の研修会を運営する。</p>	<p>【実施回数】40回 (10会場×4回)</p> <p>【参加人数】250人 (1会場 定員25人)</p> <p>研修会を修了した5、6年生を対象に御殿場での宿泊研修会(2泊)を実施</p>	<p>【実施回数】20回 (5会場×4回)</p> <p>【参加人数】64人</p> <p>5会場は緊急事態宣言の発令により中止とした。宿泊研修会は中止とした。代替として、少年キャンプ場での野外活動を実施した。</p>	<p>コロナ禍のため、会場数を減らした実施となったが、各回の内容は予定通り実施できた。</p>	<p>今年度はコロナ禍で学校施設が使用できず、地域学習センター体育館を会場としたため、確保できたのは10会場(例年は22会場)であった。また、地少協によっては学校との繋がりが希薄になってきている。子ども会の減少により、活発にイベント等を実施する地少協とそうではない地少協がある。</p> <p>キャンプ開催のために、コロナ対策を講じる必要がある。</p>	<p>会場を可能な限り学校にすることで、地少協と学校の繋がりの一助とする。</p> <p>2～3の地少協が共同でジュニアリーダー研修会を運営する。</p> <p>研修会の会場数を22→16にすることで、1会場に集まる子どもの数を増やすとともに、地少協同士の情報交換の場とする。</p> <p>宿泊キャンプは、小学5、6年生を対象に、人数を定員50人、近場の「鋸南自然の家」で2泊3日、開催回数を2回実施することで、密を避ける。</p>
<p>ジュニアリーダースーパー研修会(5～8月、10～2月)</p> <p>【概要】ジュニアリーダー研修会修了者および中学生向けの少年リーダー養成講座を行う。</p>	<p>【実施回数】10回(1期5回×2期)</p> <p>【参加人数】延べ70人 (1期 定員35人)</p> <p>9月に、希望者のみ鋸南自然の家にて宿泊研修会(2泊)を実施</p>	<p>【実施回数】6回</p> <p>【参加人数】延べ57人 (前期35人/後期22人)</p> <p>宿泊研修会は中止とした。</p>	<p>コロナ禍のため、計画より実施回数を減らしたが、予定していた内容は行えた。</p>	<p>中学生になると、より専門的なジュニアリーダーとしての研修となる。</p> <p>しかし、従来の宿泊研修は小学生と同様の150人と大所帯であった。異年齢の交流という面では良いが、育成者が伝えたいという面では、焦点がぼやける傾向がある。</p>	<p>コロナ対策として、令和3年度の宿泊研修は中学生のみを対象に、定員50人、近場の「鋸南自然の家」2泊3日を実施する計画を立てたが中止。</p> <p>引き続き、中学生のみのより専門的な宿泊研修を実施する。</p>
<p>少年キャンプ場開設(宮城ゆゆう公園)</p> <p>【概要】少年団体の野外活動の場を年間にわたり提供する。</p>	<p>【利用者数】900人</p> <p>少年キャンプ場を利用するためのキャンプ講座を2回実施(定員20人)</p>	<p>【利用者数】239人 (一般182人/ジュニアリーダー研修会57人)</p> <p>キャンプ講座はコロナ及び悪天候により2回とも中止。</p>	<p>コロナ禍により開設日が減り、利用者が少なかった。</p> <p>利用者が少ない今回の時期に、少年キャンプ場内に倉庫を新設し、野外活動に必要な物品を集約したことで今後の事業運営の効率化を図ることができた(これまでは、倉庫容量の関係で分散配置していた)。</p>	<p>少年キャンプ場利用についてのPRに重点を置く。</p> <p>キャンプ講座の委託内容について、「中止」ではなく「延期」あるいは「補講」などの措置がとれるよう検討していく。</p>	<p>少年キャンプ場利用についてのPRに重点を置く。</p> <p>キャンプ講座の委託内容について、「中止」ではなく「延期」あるいは「補講」などの措置がとれるよう検討していく。</p>

所管部署：子ども家庭部

2 青少年健全育成事業

事業項目概要		令和3年度評価		課題	今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題	今後の展開
<p>第22回足立風まつり(10/2)</p> <p>【概要】 親と子どもが一つの風を作り上げ、そのふれあいを、家庭の絆を再認識する場とする。</p>	<p>【風キット配布数】 3,800個</p> <p>【当日参加者】 1,500人</p>	<p>【風キット配布数】 3,726個</p> <p>【応募者数】 817人</p> <p>虹の広場での風揚げ中止→「風のデザインコンクール」に変更</p>	<p>風揚げはできなかつたが、風作り講習会はYouTubeを活用し、親子で一つの風を作るといふ「ふれあい」は達成できた。</p>	<p>事業規模がAプロジェクトのミニ版とも思える大きさであるとともに、マンネリ化している。</p>	<p>4月に主催である「風まつり実行委員会」と次回開催について検討する。 また、このイベントの目的は何か、何に重点を置きたいのかを見つめ直し、事業規模を見直してみる。</p>
<p>足立区民ふれあい計算フェスティバル(11/4)</p> <p>【概要】 計算能力の向上を図るとともに、親子のふれあいや高齢者の生涯学習の振興を促進する。</p>	<p>【参加者】 100人 親子の部のみ 午前 50人 午後 50人</p> <p>コロナ対策 ・「親子の部」のみ実施 (シニアの部、オープン大会は中止)</p>	<p>いずれも中止 (6/23中止決定)</p>	<p>早い時期に主催者側との開催可否について検討できたことは良かった。 しかし、代替事業の提案が出なかつたことは残念である。</p>	<p>令和2、3年度はコロナのため中止となった。代替事業の実施ができていない。</p> <p>令和元年度の参加者は、午前「親子大会」(141組)、午後「シニア」(47人)・オープン(136人)大会だった。 シニアは60歳以上、オープンは年齢制限なしと、参加者の多くは青少年ではない。</p>	<p>6月に主催である「足立区珠算教育振興会」と次回の開催について検討する。</p> <p>開催継続の場合、コロナ禍対策も考慮し、部門を「親子大会」だけにできないか見直しなどを提案する。</p>
<p>あだち子ども将棋大会(1/22)</p> <p>【概要】 小学生を対象とし、伝統文化、体験活動の一環として開催。</p>	<p>【参加者】 小学生 128人 午前 64人 午後 64人</p> <p>コロナ対策 ・個人戦のみ実施(団体戦は中止) ・午前午後の2部制</p>	<p>中止(1/14中止決定)</p> <p>【申込者数】 184人</p> <p>参加予定者に参加費を送付</p>	<p>参加可能人数を超える申込があった。 中止となったが参加予定者に参加費を送付するなどの措置をした。</p>	<p>コロナウイルス感染拡大により、2年間大会ができていない。 代替事業の実施や参加予定者に参加費を配付するなど、今後につながる対応をすることに留まっている。</p>	<p>会場開催を前提に準備を進める。 また、会場開催が難しくなった場合の代替事業について、他の自治体やアプリ活用等の情報収集を行い検討していく。</p>
<p>あだち子ども百人一首大会(3/5)</p> <p>【概要】 伝統文化、体験活動の一環として開催。</p>	<p>【参加者】 小学生/午前 72人 中学生/午後 72人</p> <p>コロナ対策 ・個人戦のみ実施(団体戦は中止) ・「全校参加制」から「希望制」に変更</p>	<p>中止(2/3中止決定)</p> <p>【申込者数】 小学生 199人 中学生 100人</p> <p>申込者に参加費を配付 希望する学校に決まり字「かるた」を配付</p>	<p>参加可能人数を超える申込があった。 中止決定後、申込者に参加費を配付することや、希望する学校に「決まり字かるた」を配付するなど、少しでも子どもたちをカッカリさせない措置をした。</p>	<p>コロナウイルス感染拡大により、3年間大会ができていない。 代替事業の実施や参加予定者に参加費を配付するなど、今後につながる対応をすることに留まっている。</p>	<p>会場開催を前提に準備を進める。 また、会場開催が難しくなった場合の代替事業について、他の自治体やアプリ活用等の情報収集を行い検討していく。</p>

所管部署：子ども家庭部

3 大学連携事業

事業項目概要		令和3年度		課題	今後の展開
計画・予定	実績	評価			
<p>帝京科学大学連携事業</p> <p>(1)ふれあい動物教室</p> <p>【概要】モルモットなどの小動物とふれあい、生命のぬくもりや動物の心について学ぶ。</p> <p>(2)大学遠足</p> <p>【概要】自然環境が豊かな山梨県上野原市に出かけ、馬の飼育の体験やキャンプ地の豊かな自然を見て周り、自然を大切にする心を首む。</p> <p>(3)体験！1日大学生</p> <p>【概要】大学で実際に講義を受け、大学生を身近な存在として感じられる機会とする。</p> <p>(4)夢の体験教室</p> <p>【概要】大学生が先生となり、児童が講義を受け、児童が講義を受け、自分の将来の方向性を見つけてあげかけとする。</p> <p>(5)のびのびプレイデー</p> <p>【概要】さかなつりや工作など複数の遊びコースを回り、遊びを通じて子どもの成長を促すとともに、保護者に子育てに関する学びを提供する。</p>	<p>【実施回数】8回</p> <p>【参加人数】制限なし</p> <p>【実施回数】2回</p> <p>【参加人数】制限なし</p> <p>【実施回数】1回</p> <p>【参加人数】制限なし</p> <p>【実施回数】5回</p> <p>【参加人数】制限なし</p> <p>【実施回数】1回</p> <p>【参加人数】制限なし</p>	<p>【実施回数】8回</p> <p>【参加人数】880人</p> <p>【実施回数】2回</p> <p>【参加人数】200人</p> <p>【実施回数】1回</p> <p>【参加人数】34人</p> <p>【実施回数】5回</p> <p>【参加人数】延べ196人</p> <p>【実施回数】1回</p> <p>【参加人数】423組482人(1,006アクセス)</p>	<p>新型コロナウィルスの影響により、対面では実施できなかつたが、非対面に切り替えることができた。</p>	<p>コロナ禍のため非対面実施のみとなったため、動物とのふれあいはできなかつた。</p> <p>コロナ禍のため非対面実施のみとなったが、非対面でライブ感を高めながら工夫して実施していく。</p> <p>大学生との交流等をオンラインでもスムーズに実施出来るよう更に内容を工夫していく必要がある。</p> <p>大学生との交流等をオンラインでもスムーズに実施出来るよう更に内容を工夫していく必要がある。</p> <p>コロナ禍のためオンデマンド形態で実施したが多量内容にはばらつきがあったので標準化していく必要がある。</p>	<p>密を回避して、対面で対面での実施を検討していく。</p> <p>学校長会等で周知を徹底することで、コロナ禍以前の盛り上がりを取り戻すよう計画を立てる。</p> <p>コロナ禍が継続することも視野に入れ、対面実施と非対面実施の双方を想定して事業計画を立てていく。</p> <p>密を回避して、対面で中学生向けのキャンパス体験事業を実施できるよう検討していく。</p> <p>密を回避して、対面で小学生向けのキャンパス体験事業を実施できるよう検討していく。</p> <p>内容の標準化のため、今後の方向性を大卒と協議していく。</p>

所管部署：子ども家庭部

3 大学連携事業

事業項目 概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績	課題	
<p>東京電機大学連携事業</p> <p>科学ものづくり体験教室</p> <p>【概要】 ものづくりを通して科学に対する興味関心を育み、考える力や工夫する力などを身に付けるきっかけとする。</p>	<p>【実施回数】 2回</p> <p>【参加人数】 300人</p>	<p>【実施回数】 2回</p> <p>【参加人数】 300人</p> <p>【申込人数】 364人</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により、対面では実施できなかつたが、非対面に切り替えることができた。</p> <p>夏休みの宿題として参加者の自宅に作成キットを送付して、オンラインでマンダムの画像を見ながら工作を完成させた。</p> <p>成果物が手元に残るためオンラインで概ね好評であった。</p>	<p>次年度はコロナ禍の影響も鑑みオンラインで行うが、参加者から漏れてしまった方のフォローができるよう、大学と協議していく。</p>
<p>東京芸術大学連携事業</p> <p>音楽教育支援活動</p> <p>【概要】 邦楽・洋楽の鑑賞会や吹奏楽部の指導などを通して、文化芸術への関心を高め、豊かで健康な育ちを図る。</p>	<p>【実施回数】 43回</p> <p>【参加人数】 各学校児童数</p>	<p>【実施回数】 42回</p> <p>【参加人数】 4,828人</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により、当初はDVDの配布(23校)から始め、後半は部活動の対面指導(19校)を実施した。</p>	<p>一度も実施していない学校に対してでも機会提供ができるように、大学と連携していく。</p>
<p>文教大学連携事業</p> <p>Zoom de 0から ENGLISH</p> <p>【概要】 英語を用いて行うゲームや歌唱および大型絵本の読み聞かせ。</p>	<p>【実施回数】 2回</p> <p>【参加人数】 60人(各回30人)</p>	<p>【実施回数】 1回</p> <p>【参加人数】 58人</p> <p>【申込人数】 101人</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により、対面では実施できなかつたが、非対面に切り替えることができた。</p> <p>参加した小学生には概ね好評であった。</p>	<p>密を回避しての、対面での小学生向けのキャンペーン体験事業を実施していく。</p>
<p>東京未来大学連携事業</p> <p>アートボランティア講座</p> <p>【概要】 子どもたちにアート活動の機会を提供し、その活動を通して関わりを深め、自己表現を促すことのできる指導者を養成する。</p>	<p>【実施回数】 6回</p> <p>【参加人数】 135人 (前期75人・後期60人)</p>	<p>【実施回数】 5回</p> <p>【参加人数】 109人 (前期75人・後期34人)</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により、1回中止となったが、5回対面で実施できた。</p>	<p>対象を中学生から高校生までに変更し、直接的な青少年教育に切り替えていく。</p> <p>区内中学校・高校に対して積極的に周知していく。</p>

所管部署：こども支援センターげんき

事業項目 概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績	課題	
特別支援教育 【概要】 ・特別に支援が必要なお子さんの就学に関する相談を行う。 ・スクールアシスタントの配置に関する支援を行う。 ・特別支援学級、通級指導学級、特別支援教室の運営に関する支援を行う。	【就学相談(見込み)】 未就学児 360件 小転・中転・中進700件	【就学相談】 未就学児 466件 小転・中転・中進752件	【就学相談】 就学相談の件数が増え、相談の質を維持して、就学について支援を多く必要がある。	【就学相談】 就学相談の件数が増え、必要な個別相談、各種検査、行動観察を維持する体制を整え、適切な就学相談に努める。
発達相談支援 【概要】 0歳から18歳までの発達相談窓口を開設。専門支援機関と連携しながら切れ目のないライフサイクルに沿った相談支援、発達評価、情報提供などを行う。	【相談件数】 未就学施設 994件 小・中学校 265件	【相談件数】 未就学施設 1,035件 小・中学校 276件	【スクールアシスタント】 多くの保護者が園や学校、保健センター、子育てサロン等の身近な場所できず、一人で困り感を抱え込んだ結果、問題が深刻になっている。	【スクールアシスタント】 区ホームページの人材募集一覧への掲載、区内六大学にチラシ配布、twitterに掲載など、引き続き広く周知を図り、一層の人材確保に努め、支援の質の向上も図っていく。
登校サポーターの派遣 【概要】 登校渋りの状態にある児童・生徒の継続的な登校を支援するため、登校サポーターを派遣する。	【支援児童生徒数】 256人	【支援児童・生徒数】 259人	保護者が児童生徒の発達特性に気づいたことで発達相談の件数増につながった。	感染症対策を実施しながら子育てサロンでの事業を再開し気軽に相談できる環境を整える。
			多くの保護者が園や学校、保健センター、子育てサロン等の身近な場所できず、一人で困り感を抱え込んだ結果、問題が深刻になっている。	登校サポーター数は充実し、学校の活用意識も高まったため、サポーターと学校の円滑なマッチングに取り組んでいく。

所管部署：こども支援センターげんき

事業項目概要		令和3年度		今後の展開
概要	計画・予定	実績	評価	課題
<p>適応指導教室 【概要】 不登校の児童・生徒を対象に、集団適応能力や社会性を育むための学級設置</p>	<p>【実施回数】 チャレンジ学級西新井 70人 チャレンジ学級綾瀬 30人 チャレンジ学級竹の塚 20人 あすテップなでしこ 20人 あすテップはなほ 20人 合計160人</p>	<p>【正式通級生】 チャレンジ学級西新井 47人 チャレンジ学級綾瀬 12人 チャレンジ学級竹の塚 24人 あすテップなでしこ 19人 あすテップはなほ 4人 合計106人 ※体験生除く</p>	<p>支援員等関係機関の効果的な働きかけにより、学校以外の学びの場につながった不登校児童・生徒が多かった。</p>	<p>各校の教育相談コーナーを中心としたチーム体制の充実を支援し、不登校の児童・生徒に必要な支援が届くよう、働きかける。 5か所の適応指導教室間で授業のオンライン配信を行う等ICTを活用した学習支援もを行い、個々の児童・生徒に寄り添った丁寧な支援を進めていく。</p>
<p>NPOと連携した学習支援 【概要】 外出困難な児童・生徒に対して、居場所を兼ねた学習支援事業を活用した不登校支援を行う。</p>	<p>【支援児童生徒数】 60人</p>	<p>【支援児童・生徒数】 67人</p>	<p>SSW、教育相談員、教職員が学校以外の居場所として提案したことにより、不登校児童・生徒を目標値以上に繋げることが出来た。</p>	<p>利用定着していない児童・生徒へSSWや教育相談等の支援を継続し、学級復帰や学校以外の居場所へ繋げる。</p>
<p>スクールソーシャルワーカー事業 【概要】 福祉の専門的な知識と技術を持つソーシャルワーカーが学校をはじめ、様々な機関と連携して、子どもたちの置かれた環境(学校・家庭・地域)に働きかけを行う。</p>	<p>【支援児童・生徒の改善率】 32%</p>	<p>【支援児童・生徒の改善率】 39%</p>	<p>令和元年度から全小・中学校への巡回を開始し、定期訪問を小学校へ月1回、中学校へ週1回実施したことにより、学校の事業理解の深まりに繋がりが、改善率は目標値を上回った。</p>	<p>令和4年度の定期訪問は、中学校へ週1回を継続しつつ、小学校へ月2回と増やして支援を強化する。</p>

所管部署：こども支援センターげんき

事業項目 概要	令和3年度			課題	今後の展開
	計画・予定 【件数等】 15,000件 37,000時間	実績 【件数等】 17,071件 40,544時間	評価		
<p>子ども預かり・送迎支援事業</p> <p>【概要】 「あだち子育て応援隊事業」より事業名称変更。子育てをしている家庭(0歳から小学生まで)を対象に、自宅または子育てホームサポーター宅で、子どもの預かり等を行う。</p>			<p>区の保育施設整備に加え、コロナ禍による休園休校にともなう送迎需要減少の影響があるものの、前年度対比で増加しており、需要は変わらずにある。</p>	<p>送迎利用の需要が増加傾向にある一方で、預かりの利用実績が低下している。また、サポーターが高齢化しており、次の担い手を育成していく必要がある。</p>	<p>次世代のサポーター育成等を、事業者と協議しながら進めていく。</p>
<p>こどもショートステイ事業</p> <p>【概要】 保護者が病気や出産などの場合、1か月6泊を上限に子どもを協力家庭宅(在宅型)または児童養護施設(施設型)で預かる。</p>	<p>【ショートステイ利用泊数】 在宅型 10泊 施設型 1,240泊</p>	<p>【ショートステイ利用泊数】 在宅型 1泊 施設型 1,425泊</p>	<p>利用泊数は、前年度対比で増加している。 同一保護者(児童)による繰り返しの利用が要因の一つであるほか、新規利用者の増加が寄与した。</p>	<p>在宅型の実績が少ない。受入れ協力家庭の高齢化により、特性を持つ児童を預けづらい。 同一保護者の繰り返し利用による土日利用枠の需給がひっ迫している。</p>	<p>施設型の実績は安定した推移を見ているため、引き続き現状を維持する。 今後は、在宅型の利用条件に合致する場合には、家庭的な雰囲気を感じられる在宅型を案内していく。</p>
<p>産前・産後家事支援事業</p> <p>【概要】 出産前後の体調不良等により家事を行うことが困難な家庭を対象に、一定期間、家事の援助を行うホームヘルパーを派遣する。</p>	<p>【派遣数】 1,000件 1,400時間</p>	<p>【派遣数】 1,084件 1,516時間</p>	<p>R3に利用期間を産後1か月から産後3か月に延長したことにより、利用が増加している。</p>	<p>利用期間の拡大と、委託介護事業者との需給バランスの均衡を図っていく必要がある。 また、新田・小台・宮城などの地域に派遣可能な事業者が少ない等の地域的不均衡が生じている。</p>	<p>利用期間の拡大や、地域的不均衡の解消を図るために、事業者と協議していく。</p>

所管部署：こども支援センターげんき

事業項目 概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定 【訪問支援回数】 150回	実績 【訪問支援回数】 163回 ※戸別訪問(在宅・不在) 含めた数は、283回 (R4.3.31現在)	課題	
<p>きかせて子育て訪問事業</p> <p>【概要】 出産または育児に おける不安感を抱 えた妊婦または未就 学児のいる保護者に 対し、定期的に訪問 し傾聴等の支援を行 う。また、行政機関との 接触が少ない未就学 児の家庭に対し、サ ポーターが訪問して 行政サービス等を案 内するとともに、家庭 での児童の様子等を 伺いながら、児童の 安全を確認していく。</p>	<p>【訪問支援回数】 150回</p>	<p>【訪問支援回数】 163回 ※戸別訪問(在宅・不在) 含めた数は、283回 (R4.3.31現在)</p>	<p>公的機関との接触の少ない家 庭に対してアプローチをしていく ため、子育てに役立つ情報を提 供する訪問事業を開始した。</p>	<p>来年度の事業継続を含め、今後のあり方 について協議を進めていく。</p>
<p>養育支援訪問事業</p> <p>【概要】 養育支援が特に必 要であると判断した 家庭(要支援家庭)に 対し、相談員による 養育に関する相談及 び助言等、並びに事 業協力員等による必 要な育児・家事支援 を行うことにより、適 切な養育の確保及び 児童虐待の防止を図 る。</p> <p>・ほっとほむ事業協 力員等による育児・ 家事支援 ・子育てホームサ ポーターによる預か り・送迎支援</p>	<p>【養育支援訪問日数】 1,100日</p>	<p>【養育支援訪問日数】 1,507日</p>	<p>養育困難家庭等への支援強 化を行うべく、地域の協力員、 事業者と連携を図ることで、支 援日数の増加につながった。</p>	<p>適切な養育支援を行っていくために、相談 員および各事業者と協議していく。</p>
			<p>家庭での養育力を向上させる事を目的 とするが、支援に依存してしまいう家庭もあ り、協力員(サポーター)の支援直の向 上が求められる。</p>	

所管部署：こども支援センターげんき

事業項目概要		令和3年度		今後の展開
計画・予定	実績	評価	課題	
<p>要保護児童対策地域協議会</p> <p>【概要】 要保護児童の早期発見及び適切な保護並びに児童とその保護者への適切な支援や対策を検討するため、関係機関とネットワークを結び相互連携体制を構築する。</p>	<p>【参加人数(延べ)】 2,300人</p>	<p>【参加人数(延べ)】 2,345人</p>	<p>要保護児童等に対する支援の実施状況を適切に把握し、関係機関等との連絡調整を行う役割が求められる。</p>	<p>各事案の複雑かつ多様化に対応するため、コロナ禍における制限のなかで、工夫しながら、関係機関と連携し、児童虐待の予防、早期発見、再発防止に向けた取り組みを継続する。</p>
<p>児童虐待防止事業</p> <p>【概要】 児童虐待の予防や再発防止のため、虐待防止講座やグループワーク、啓発活動を行う。 また、フリーダイヤル「キッズライン」により、子ども自身からの相談を行いやすい環境にも配慮している。 ・子育て交流講座「完璧な親なんじゃない」開催 ・イライラしない子育て講座開催 ・児童虐待防止キャンペーン(オレンジャーボンキャンペン) ・児童虐待防止啓発物の作成</p>	<p>【講座開催回数】 12回</p>	<p>【講座開催回数】 7回</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、6日制講座の短縮中絶や中止を余儀なくされた。 講師のスケジュール調整や会場確保等の難しさから、講座の延長や振替えが難しく、受講者のモチベーション維持が課題である。</p>	<p>講座については、新型コロナウイルス感染症状況に注視しながら開催していく。</p>
<p>子育てボランティアグループの支援</p> <p>【概要】 親子で参加できる生涯学習講座「風の子どもカルチャー」を開催している。</p>	<p>【参加人数(延べ)】 629人</p>	<p>【参加人数(延べ)】 300人</p>	<p>R3より往復ハガキでの申込みに加え、区ホームページを利用しての申込みを開始し、利便性向上に努めたが、コロナ禍により講座中止や日数短縮が頻繁に起こったことで、参加人数が減少した。</p>	<p>適切な講座の申込み方法を模索する。</p>

所管部署：生涯学習振興公社

事業項目概要	計画・予定	実績	令和3年度評価	課題	今後の展開
<p>あだち放課後子ども教室の支援(運営支援)</p> <p>【概要】 各小学校の放課後子ども教室とその運営にあたる実行委員会への支援【通年】</p>	<p>【研修・会議】 安全管理講習会 72回 スタッフ研修 3回</p> <p>運営委員会 1回 全体会議 13回</p> <p>日常運営支援 巡回、運営課題や事故等の対応、事務支援、スタッフ募集への支援等</p>	<p>【研修・会議】 安全管理講習会 55回 スタッフ研修 2回</p> <p>1回は、集合型と中止となり、動画配信方式で実施。もう1回は、集合型と動画配信を両方実施。</p> <p>運営委員会 中止 全体会議 書面開催 ブログ作成</p> <p>スタッフ募集動画作成 公社HPにて配信 コミュニティチャンネル J:COM足立放映 118回(2ヵ月間) 小学校HPへのリンク 貼付依頼</p>	<p>緊急事態宣言の発出等により、放課後子ども教室が、一時休止となった時期があったが、実行委員会、学校と協議を重ね、1校を除き、68校再開することができた。</p> <p>スタッフ研修は、従来の集合型に加え、新たに動画配信方式を実施し、スタッフの資質向上に寄与することができた。</p> <p>スタッフ募集動画は、事業概要、スタッフ活動の意義のPRに繋がった。</p>	<p>コロナの影響により、開催時間や会場数、参加日の学年わけなど、実施内容が縮小している。</p> <p>休止期間が長期にわたっている放課後子ども教室では、見守り活動を再開できるスタッフが減少し、スタッフ不足に陥る可能性がある。</p>	<p>今後の感染拡大を注視しつつ、実行委員会、学校と協議し、段階的に、コロナ禍以前の内容(全学年・週5日・複数会場での活動等)に戻していく。</p> <p>スタッフ活動説明会の実施やスタッフ募集パンフレットの配布、募集動画の活用等により、各放課後子ども教室のスタッフ確保を支援する。</p>
<p>あだち放課後子ども教室の支援(体験プログラム導入)</p> <p>【概要】 放課後子ども教室参加児童の体験・交流活動の充実をめざしたプログラムの導入支援【通年】</p>	<p>実行委員会主催のプログラム 地域のボランティアの協力、企業等との連携により実施する。 随時</p> <p>「専門人材を活用した活動プログラムの充実事業」(東京都教育庁)への参加 4校</p>	<p>【体験プログラム実施数】 15校 181回</p> <p>【プログラム例】 工作、おりがみ、将棋、運動遊び等・コロナ禍により、対面活動が制限されたため、一部の放課後子ども教室での実施にとどまった。</p> <p>「専門人材を活用した活動プログラムの充実事業」(東京都教育庁) 中止</p>	<p>一人遊び向けの遊具、クイズ、ぬりえなどの教材を提供し、体験活動の支援を行った。</p> <p>・公社自主事業として、「放課後あそびサポーター講習会」(コロナ禍でもできる運動あそび)を、放課後子ども教室のスタッフ等を対象に開催し、各放課後子ども教室での体験プログラムの実施を支援した。</p>	<p>コロナの影響により、児童の活動に制約が多く、体験プログラムの開催が困難な状況である。</p>	<p>今後の感染拡大を注視しつつ、体験プログラムを実施できるより、密にならないプログラム事例を示したり、ボランティア等、地域の人材を実行委員会につなぐなど、導入支援を行う。</p>

所管部署：生涯学習振興公社

事業項目概要	令和3年度			今後の展開
	計画・予定	実績	課題	
<p>あだち放課後子ども教室利用案内の配付【概要】</p> <p>放課後子ども教室の事業内容をわかりやすく掲載し、保護者及び関係者へ配付する冊子の配付【随時】</p>	<p>69校の1年生保護者を中心に利用案内を配付。 8000部作成</p>	<p>8000部作成 【配布先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生保護者(入学式、保護者説明会、登録申込時) ・学校関係(校長・副校長)、区関係部署(説明用) ・新規見守りスタッフ(説明用) 	<p>毎年、利用案内を配付することにより、放課後子ども教室の事業内容について保護者の理解促進に寄与している。</p>	<p>事業に関連する保護者からの問い合わせ等を改訂時の参考とする。また、保護者あての通知文などに「利用案内」の二次元コードを掲載しスマートフォン等で閲覧可能にするなど冊子のPRを行う。</p>
<p>文化団体等支援【概要】</p> <p>歓喜の演(狂言・合唱)への活動支援</p>	<p>【実施回数】 2回</p>	<p>【実施回数】 3回</p> <p>【参加者】 828人</p> <p>※20周年特別公演の開催により計3回実施</p>	<p>子どもから大人まで一緒に練習して本番の舞台で発表するという活動に対し、練習会場の確保の他、広報資料や感染防止対策への助言などの支援を行った。</p>	<p>団体の活動が継続・発展するように、これまでの支援に加え、活動のPR方法についても団体と協議していく。</p>
<p>足立ジュニア吹奏楽団の育成・活動支援【概要】</p> <p>足立ジュニア吹奏楽団の運営、演奏会や練習等への支援</p>	<p>【実施回数】 98回(練習・演奏会等)</p> <p>【参加者】 12,280人</p>	<p>【実施回数】 50回(練習・演奏会等)</p> <p>【参加者】 2,916人</p> <p>【演奏会等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・XmasリモートLIVE出演(アリオ西新井) ・綾瀬警察署交通安全のつどい出演(しようぶ沼公園) 	<p>コロナの影響により、週2回の定期練習や演奏会の多くが中止となった。</p> <p>集合練習ができない期間、個別練習やリモートレッスンを行った。</p> <p>また、活動可能ときは、会場を分けての練習や民間企業等のイベントへの参加など、感染防止対策を講じて活動を続けた。</p>	<p>コロナ禍においても活動を継続できるように、練習会場の確保や演奏会の実施調整、指導者との連絡や楽団活動のPRなど、楽団及び楽団を運営する友の会(構成員は団員の保護者)を支援する。</p>
<p>コンサートinミュージアム【概要】</p> <p>区内5か所の民間文化施設で実施するコンサートや催し物</p>	<p>【実施回数】 5館10回</p> <p>【参加者】 500人</p> <p>※動画制作・配信2館</p>	<p>【申込者数】 181人</p> <p>※2館(BUoY、六町ミュージアム)は施設紹介とコンサート等の動画を制作・配信</p>	<p>コロナの影響により、有観客のコンサートが5館全て中止となったが、18歳以下の優先枠を設け、年齢層の拡大に努めた。</p> <p>また、2館の動画を制作してYouTube配信し、区内の民間文化施設の魅力とコンサート等の楽しさを発信した。</p>	<p>高校生優先枠の設置や親子・子ども向け公演の開催により、幅広い年齢層の来場を促す。</p> <p>1日2回公演の開催や動画の配信などにより、多くの区民に視聴の機会を提供する。</p>

所管部署：生涯学習振興公社

事業項目概要		令和3年度		課題	今後の展開
計画・予定	実績	評価	課題		
<p>小学校アウトリーチコンサート</p> <p>【概要】 プロの演奏家が小学校に出向いて低学年向けに実施するコンサート</p>	<p>【実施回数】 8校24回 【参加者】 600人</p>	<p>実施校数を昨年度までの3校から8校に増やした。 1年生1クラスごとに音楽室等でコンサートを開催し、生演奏や演奏家との交流を間近で体験する機会を提供した。</p>	<p>コロナの影響により、1月～2月開催予定の8校中3校が延期となり、学校及び出演者との日程調整に苦慮した。</p>	<p>令和3年度は、10月に学校へ案内を送付、11月～12月に実施校との打合せ、1月～2月に開催という流れであったが、令和4年度は全体のスケジュールを早めることとする。</p>	
<p>子どもの未来応援アウトリーチコンサート</p> <p>【概要】 プロの演奏家が子どもに関わる施設等に出向いて実施するコンサート</p>	<p>【実施回数】 3回 【参加者】 60人</p>	<p>コロナの影響により、2回の実施となった。 区の居場所施設(不登校支援)に登録する中学生対象と、子育てサロンを利用する乳幼児・保護者対象にコンサートを行い、生演奏や演奏家との交流を間近で体験する機会を提供した。</p>	<p>対象となる子どもの年齢や施設に合った演目と出演者の選定が必須である。</p>	<p>実施する施設の状態を把握し、施設のスタッフと協議した上で、子どもたちの興味を高めるように、出演者の選定とプログラムの調整を行う。</p>	
<p>読み語りキャラバン</p> <p>【概要】 地域の施設等で、子どもや親子に読書を親しんでもらう機会を提供するイベント型おはなし会</p>	<p>【実施回数】 6回 (対面3回×動画3回) 【参加者】 150人(対面) (1回につき50人)</p>	<p>コロナ禍のため、入場者数が多くならないよう、また事前に入場者が把握できるよう、「当日直接会場へ」から「事前申し込み制」とした。 3回の延期を繰り返し、その都度広報で募集をかけ直した。 コロナの影響か、例年より観客の人数(特に子ども)が少なかつた。</p>	<p>声を出す活動のため、感染症対策として広いスペースの会場確保が必要となる。 また、著作権の問題があるため、題材をセレクトするにあたって、十分な確認が必要である。</p>	<p>「放課後子ども教室」の場でもキャラバン隊の活動を行い、子どもたちが本に親しむきっかけづくりを行っていく。 区内施設(保育園・デイサービスなど)にも足を運び、子どもから大人までを対象とした活動を拡大していく。</p>	